

## 26日 土曜

### 創世記

ダビデによる。ダビデがアビメレクの前で、頭がおかしくなったかのようにふるまい、彼に追われて去ったときに。

- 34:1 私はあらゆるときに【主】をほめたたえる。私の口にはいつも主への賛美がある。
- 34:2 私のたましいは【主】を誇る。貧しい者はそれを聞いて喜ぶ。
- 34:3 私とともに【主】をほめよ。一つになって御名をあがめよう。
- 34:4 私が【主】を求めると主は答えすべての恐怖から私を救い出してくださいました。
- 34:5 主を仰ぎ見ると彼らは輝いた。彼らの顔は辱められることがない。
- 34:6 この苦しむ者が呼ぶと【主】は聞かれすべての苦難から救ってくださいました。
- 34:7 【主】の使いは主を恐れる者の周りに陣を張り彼らを助け出される。
- 34:8 味わい見つめよ。【主】がいつくしみ深い方であることを。幸いなことよ主に身を避ける人は。
- 34:9 【主】を恐れよ。主の聖徒たちよ。主を恐れる者には乏しいことがないからだ。
- 34:10 若い獅子も乏しくなり飢える。しかし【主】を求める者は良いものに何一つ欠けることがない。

ダビデは自分を守るために、気が違ったかのようにふるまわなければなりません。不安と恐怖、そして屈辱の中にいたのです。それでも彼は「あらゆるときに主をほめたたえる」と、信仰の宣言をしています。

それは彼が今だけの境遇に気持ちが反応して、不平不満を言うのではなく、これまでの主のみわざを



思っているからです。つまり「主のすばらしさを味わい、これを見つめ」ているのです。

私たちは日常生活の中で、主を深く思うときが大切です。時間をかけるのを惜しんで、主との関係も簡単にすませてしまうのが、効率のよい生き方ではありません。時間の有効利用ではありません。むしろ主の素晴らしさを味わうことで、感情や考えの堂々巡りから脱却できるのです。またこの世のアプローチではどんなに時間をかけてもかなわない、主の真理に到達できるのです。何よりも、私たちに本当に必要な、主自身の愛をいただくことができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

